

実りの秋 願い 稲虫まつり

害虫を追い払い、実りの秋を迎えられるよう
願いながら神田の際にササを立てる子どもたち



多留姫文学 自然の里創造委 園児や児童ササ立て

茅野市の多留姫文学自然の里創造委員会（伊東正勝委員長）は1日、稲虫まつりを同里の神田で行った。稲の害虫を追い払い、実りの秋を迎えられるよう願いながら、水田の脇にササを立てた。

参加した園児や小学生は中沢公民館で虫の絵を描いた紙をササに取り付けた。ササを手にし、同委員の大人たちとともに神田まで歩いた。

神田では5月に植えた稲が青々と育っていた。子どもたちは列を作って新田のあぜ道を1周し、委員の合図で次々とササを立てていた。

伊東委員長（74）は「稲作とそれに関わる行事は大事な地域の伝統。子どもたちに経験してもらい、そうした記憶が少しでも残ってくれたらうれしい」と話していた。